

2022年11月15日

様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会  
会長 荒木 輝明 様

日本ジオパーク委員会  
委員長 中田 節也



### 第46回日本ジオパーク委員会審査事前確認結果通知書

2022年9月28日に行われた第46回日本ジオパーク委員会において確認された貴地域に関する課題等をまとめて、ここに通知します。

#### 【総評】

アポイ岳 UGGp は、新たなジオサイト「冬島おおまのかつてのプレート境界」の公開、アイヌ文化の普及、小中一貫の長期学習プログラム「ふるさとアポイ学」のカリキュラム化、自然観察会「ブラアポイ」の実施、高山植物保存プロジェクトの継続実施、施設間連携の進展、展示インフラの更新、地元ホテルとの連携などの活動が進んだ。

その一方で、ユネスコ再審査に向け、さらなる準備が必要である。前回の指摘事項5項目のうち保全方針、マーケティング、パートナーシップに関する3項目への対応が不十分であった。また、海域に「親子岩とソビラ岩」などのジオサイトがあるが、領域に含まれておらず、海域への領域拡大を検討する必要がある。運営体制に関しては、行政一体型のジオパーク運営のメリットや理由をより丁寧に説明する必要がある。

#### 【優れている点】

- ・新たなジオサイトの開発：2020年に新たにサイト指定された地形・地質サイト D7「冬島おおまのかつてのプレート境界」は、かつてのユーラシアプレートとかつての北米プレートが衝突した境界とされ、アポイ岳を含む日高山脈の形成を知ることができる重要な場所である。この場所に看板を設置し、ジオサイトとして公開したことは高く評価できる。
- ・アイヌ文化の普及啓発：ジオパークビジターセンター、町立様似図書館、郷土館の3施設においてアイヌ文化に関する新たな展示の導入、アイヌ口碑伝説に関する絵本やアニメーションの制作が行われ、先住民族アイヌに関する展示が拡充された。
- ・アポイ岳の保全：アポイ岳ファンクラブとビジターセンターが連携して、登山道の維持管理、高山植物の保存、登山客への対応、自然観察会「ブラアポイ」の開催等、継続した保全活動を展開しており、非常に優れた取り組みである。

#### 【改善すべき点】

1. 前回の指摘事項への対応：特に保全方針、マーケティング戦略、パートナーシップ戦略について関係者とともに、改善のための具体的方策や計画を検討すること。
2. 領域の見直し：親子岩やかつてのプレート境界など、海域にジオサイトが設定されているものの、領域は陸域のみで、これらが含まれていないため領域の見直しが必要である。

3. プログレスレポート・自己評価表 A・B の修正：プログレスレポートについては以下の事項を踏まえ、大幅修正をすること。
  - ・「E1.1 地質遺産」に関しては、国定公園や特別天然記念物等の指定状況や、地形・地質サイト E1「小野工業の旧鉱山」のサイト指定の解除理由を加筆すること。
  - ・「E1.5 情報・教育・研究」のうち、研究については分野別内訳、論文の概要紹介、研究支援センターの役割を加筆すること。
  - ・「E2 その他の遺産」において、「E2.1 自然遺産」に関しては国指定特別天然記念物や道指定記念保護樹木、道指定鳥獣保護区等について、プログレスレポートに概要や件数等を記述すること。「E2.2 文化遺産」についてはチセに関する記述を加筆すること。「E2.3 無形文化遺産」に関しては「アイヌ古式舞踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されていることを確認し、プログレスレポートや目録に記載すること。
4. 基本計画・行動計画の見直し：アポイ岳ジオパークの3計画（マスタープラン、基本計画、保全計画）を見直し、その中で持続可能な開発方針を定めること。あわせて、行動計画の策定や成果指標として設定されている目標数値についても、環境や教育、社会面での目標値を検討すること。
5. 新ジオサイトの解説と安全管理：地形・地質サイト D7「冬島おおまのかつてのプレート境界」の解説の工夫と安全管理の方法を検討し、改善してほしい。
6. ネットワーク活動へのさらなる貢献
  - ・岩石標本の交換によるジオパーク間の交流は進んでいるので、それに加え、気候変動や先住民族などといった環境や人といった面での人的ネットワーク交流を検討してほしい。
  - ・ビジターセンターに展示されているかんらん岩の世界の分布図に UGGp が含まれる場合はその UGGp のロゴマークを貼るなどしてジオパークネットワークを可視化してほしい。また、郷土館等でユネスコ無形文化遺産「アイヌ古式舞踊」を紹介・解説することを検討してほしい。
7. ジオツーリズム開発：ウィズコロナ時代において、個人旅行や同一都道府県内での教育旅行の需要が増えている。地形地質遺産の保全と地域の独自性の向上という両輪の実現に向けて、様子町観光協会やガイド、事務局等の関係者同士でよく話し合い、アポイ岳 UGGp の特徴を活かし、大地の成り立ちと人の暮らしのつながりが伝わるジオツアーを企画・販売・催行してほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された改善点を踏まえ、来年のユネスコ審査の準備を進めてください。また、ユネスコに提出する書類を 12 月初旬に日本ジオパーク委員会に提出してください。

以上